

コラム

みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.10

【いまそこにある危機をどう乗り切るか～かかりつけ薬剤師がいたら～】

先のコラムで、浅草から外国人の姿が減り観光地らしくないとお伝えしましたが、その状態はまだ(2/18現在)続いています。昨日のニュースでは、国内感染がじわじわと拡大すると予測されるため、できるだけ「不要不急」の外出を控えるようにと報道しています。

「不要不急」という言葉を聞くのは、大型台風の直撃前後や大地震が発生した時に聞いた記憶がありますが、新型コロナウイルス騒動で発せられるとは思わなかった方が多いのではないのでしょうか。

このウイルス、感染力はSARSより上だが致死率は低いとかなんとか報道されていますが、誰も自分が感染しているかもしれないと思うと不安でたまりません。ちょっとむせて咳がでただけで「もしかして!」と心配になったり、風邪やインフルエンザの症状と似ているために判別しづらいと思ったり。おまけに花粉症の時期だけに、そのせいで頭痛・鼻水・クシャミがでるのか感染しているからか見分けがつかなくなったり……。

その上、横浜港に不運にも停泊したままになっている豪華客船の中で検査にあたっていた検疫官や感染者の対応にあたった医療機関の医師やナースまでもが感染した、といった報道を聞くとびびってしまうものです。

それにしてもクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」号の乗船客の方々は不運としか言いようがありません。自分史上、忘れがたい出来事のひとつとなったことでしょう。高額な値段でリフレッシュや老後の自分ご褒美として利用された(?)ものの船から降りられず、多くの方が感染され、日ごと感染者数が増加し集団感染、「地獄のクルーズ」となってしまったわけですから。ネットを検索すると「ウイルス培養船」「COVID-19製造機」など恐ろしい言葉が目立っています。

感染しているかどうかの検査を受ける時間が長引いたことなどに対する日本政府の対応が世界各国からバッシングをあびていますが、フツーに考えても、閉じ込められると感染の確率が高くなること

はわかるというものです。

ところで、想定外の出来事がおこり、持病とつきあっている乗船客の方々の薬問題が大きく取り上げられました。もちろん、この問題はこのクルーズ船の事例だけでなく、災害時における避難生活の中でも起こりえます。医療関係者が船内に派遣され奮闘されました。あまり報道されませんが、薬剤師もこの緊急事態に大きく貢献したと聞いています。

感染列島化を避けるために日本各地でイベントの中止が目立ち、私もスケジュールの調整を余儀なくされています。

2/17に開催された「浅草がん哲学外来カフェ」では、薬剤師みやちゃんが、集団感染したクルーズ船での薬問題を議題にとりあげ力説していました。

【横浜のクルーズ船乗船客のおくすり】

おくすりが必要な方は用紙にかいてもらえば、無料で渡す……という話。

どの窓口がこれを行うのか……保健所なのかどこなのか。

こんな時、かかりつけ薬剤師がいればすでに手配の段取りが進んでいる日本人もいるかもしれない。自分だったら横浜の検疫所と相談するとかで渡せるようにすぐに手配するだろう。

•日本人に関しては、お薬手帳とか持っているかいなか。

⇒もっていれば、その内容で調剤できるだろうし、一包化などしている場合や、体調により調整が必要な薬をかかりつけ薬剤師（調剤した薬局）に問い合わせで調剤できるかと。

⇒持っていなければ、何か情報が無いか。ない場合は1日分の薬を確認して調剤することができる。

⇒さらに、かかりつけ薬剤師にすでに連絡している人もいるかもしれない。


•外国人の場合はむずかしいかも。でも同じやり方だよ。

でも一番大事なことは、そのことで血圧が変動したり、症状が出たりした時に臨機応変に薬の増減ができるかという点。薬剤師が後方支援することはとても有用だと思うのです。

保険適応の薬でも災害時対応になるはずなので……。

【でもやっぱり こういうこともあるから”かかりつけ薬剤師”持っているといいですね】

絶対の保証だよ……私の患者さんがこの中にいたりしたらトッププライオリティで支援すると思うし……みんな心ある薬剤師はそう思っているはず。旅行に行く前の「かかりつけ薬剤師」への連絡って大事かもしれないです。電話ならこういう状況でも感染についても病気についても相談乗れるし励ませるし。



2月19日からは一部の方々の下船が始まりました。まだ船の中に残っている方もいらっしゃいます。解決には至っていませんが、そもそも私たちは、何が起きてもおかしくない世界に生きているということを自覚し、そのための備えが必要なことを改めて実感したことと思います。地震や台風に備えて水や食料を買い置きするように、マスクや石けん類の備蓄、そして薬がなくなったからといって慌てずにはすむように「おくすり手帳」や「かかりつけ薬剤師」をもっていると便利です。今夏、オリンピックが開催される国の住民として、私たちは、一人ひとりがやれることを実践していくしかないですね。がんばろう、ニッポン！

